

### 1. 毎年 5 万人が胃がんの犠牲に

現代の日本人は一生の間に 2 人に一人の割合で癌がんになり、5 人に一人の割合でがんのために命を落としています。臓器別で見ると、男性は肺、胃、大腸、肝臓、膵臓の順、女性は大腸、肺、胃、膵臓、乳房の順になっています。昔はがんと言えば胃がんを意味した時代もありました。しかし、順位こそ男性では第二位、女性では第三位まで低下したものの、ここ 10 年くらいは毎年 5 万人近い人が胃がんで亡くなっています。

### 2. 高齢者に多いピロリ菌感染

この通称ピロリ菌は口から入ってきます。親子間の感染がおもな感染経路と考えられています。若い人たちの感染率は非常に低いのに対して、団塊の世代以上の高齢世代では感染率がたいへん高く、実際にがんが良く見つかるのも 65 歳以上の場合がほとんどです。これは、高齢者世代が子供の頃には衛生環境が今ほど整っておらず、とくに上下水道があまり普及していなかったため、井戸水に混じったピロリ菌で非常に多くの人が感染したのではないかと考えられています。

### 3. 胃がんの原因はピロリ菌

ピロリ菌は胃がんの主な原因と考えられています。ピロリ菌感染から胃がんに至る道筋は二つあります。

ピロリ菌は大人の胃にはなかなか定着しませんが、5 歳位までの乳幼児には簡単に棲みついてしまいます。また、一度胃に棲みつくと、大抵は自然に消えることなく胃の持ち主とともに長く胃の中で生き続けます。

ピロリ菌は胃の中で胃炎を起こします。これがいわゆる慢性胃炎です。ピロリ菌に感染したひとは、もの心つく前から胃炎になっているので、普段は胃の症状が気になる人はほとんどいません。その後 30 年から 40 年くらい胃炎が続くうちに胃の表面が変化して胃がんになりやすい状態に変化し始めます。これが第一の経路です。この変化は主に胃の出口側から始まって胃の入り口側へと広がり、最後には胃全体が、いわば老化したなれの果て状態になります。実際、胃がんは表面が老化したところから良く見つかります。普段、内視鏡検査をしながら注意していると、ピロリ菌がある人では 50 歳代で早くも胃全体に老化が広がっている人をみかけます。この変化は普通の人では 150 年位かかると言われていますので、ピロリ菌感染がどれほど胃にとって良くないかが分かります。ただし、胃の老化が早まる原因はほかにもありますので、いまお話しした人は複数の原因がたまたま

重なった特別な場合なのかも知れません。

ところで、胃が老化していないのにがんになる人もいます。ピロリ菌は直接胃の表面にある細胞をがんに変化させてしまう能力も持ち合わせているのです。これが第二の経路です。

ピロリ菌に感染した若い人も要注意です。胃がん検診の対象年齢前である50歳未満のひとでも、とくに親兄弟がピロリ菌を持っていたことが分かったときや、胃がんになった場合は、早めに医師に相談してピロリ菌の検査をしておきましょう。ピロリ菌の検査やピロリ菌を取り除く治療は健康保険を使って受けられます。ピロリ菌がいなくなると胃炎がなくなって、胃の老化速度が本来のゆっくりとしたものに戻ります。まだ老化していないところががんになる可能性が大幅に低くなります。しかし、老化してなれの果てまで行ってしまった胃の表面が元に戻ることはまずありません。ですからこの治療は胃の老化が少ない、できるだけ若いうちに受けることが大切です。

#### 4. ピロリ菌感染を判断するようになった胃がん検診

今年から胃がん検診のやり方が大きく変わって行きます。40歳以上だった対象年齢は50歳以上になり、内視鏡（胃カメラ）も選ぶことが出来ます。検診間隔は二年に一度になりました。ただし、内視鏡検診の準備には手間と時間がかかるため、多くの地域では当分の間、従来通り、40歳以上の人に毎年バリウム検診が行われることが多いと思われます。

それとは別に、マスコミではほとんど取り上げられていませんが、バリウム検診では今年度からピロリ菌胃炎を積極的に判断するようになりました。これには「将来的に胃がんになりやすい人と、そうではない人をできるだけ区別して行こう。」また、「多くの人にピロリ菌感染の情報をお知らせしていこう。」という狙いがあります。ただし、いまのところ通知方法までは統一されていません。

一番分かりやすいのは「ピロリ菌胃炎疑い」ですが、「慢性胃炎」あるいは「萎縮(いしゆく)性胃炎」、「胃粘膜萎縮」とされた場合もほぼ「ピロリ菌胃炎疑い」と同じと考えてください。慢性胃炎のために胃の表面が薄く変化した状態を萎縮粘膜と呼びます。先ほどお話しした胃の老化を示す状態と考えてください。少し前の胃がん検診ではこれらは単に「正常」あるいは「異常なし」、「精密検査不要」でした。ピロリ菌感染に重きを置くか、その結果の胃炎に重きを置くかの違いです。これらの通知がきたら、「ピロリ菌による負担が胃にかかっているので注意してください。できれば専門の医師に一度相談してみましよう。あなたの場合、胃がん検診は毎回受けるようにしてください。」というメッセージが込められていると思ってください。

#### 5. まとめ

毎年5万人近い人が胃がんで命を落としています。ピロリ菌感染と胃の老化は、原因と結果の関係にあり、どちらも胃がんの発生に深く関わっています。ピロリ菌には直接胃が

んを発生させる力もあります。ピロリ菌の除去治療は、胃の老化が進む前に受けるのが理想です。胃がん検診で慢性胃炎や萎縮性胃炎の通知を受けた場合は、ピロリ菌感染胃炎疑いと理解してください。ピロリ菌、胃の老化、胃がん、これらの関係を正しく理解して胃がんから身をまもるために役立ててください。

小樽掖済会病院

〒047-0032

小樽市稲穂 1-4-1

TEL:0134 (24) 0325

FAX:0134 (24) 0326

URL:<http://www.otaru-ekisaikai.jp>